

| 項目      | 事業計画（平成30年度総会）   | 平成30年度事業の概要と成果  | 今後の課題   |
|---------|--|---|---|
| 協議会     | <b>①総会</b><br><b>②企画運営会議</b> （2回開催）<br><b>③利用調整会議</b> （10回開催）  | <b>①総会</b><br><b>②企画運営会議</b> （2回開催）<br><b>③利用調整会議</b> （10回開催）   | <input type="checkbox"/> 体制についての検討<br>・企画運営会議と利用調整会議の関係の整理が必要。<br>・体制についての検討。   |
| 保全活動    | <b>④環境保全活動</b><br>目的：主に多様性の高い二次草原の復元を目的とする<br>計画：（月1回・計11回予定）<br>・将来的な目標植生像を目指し、市有地の環境を保全するため、適宜ミーティングを行いながら、ネザサや草地、通路の草刈、樹木伐採、湿地・ツツジの保全作業を行う。                             | <b>④環境保全活動</b><br>活動概要：（月1回・計11回実施、延べ参加人数416人、草刈面積約4000㎡）<br>・年度当初に活動計画を立案し、適宜打合せを行って計画的な活動が行われた。<br>・草刈の作業効率が上がり、計画した作業範囲を達成することができた。<br>・草刈の効果でネザサの生育が抑制され、背丈が低い原っぱが維持されている。<br>・草刈だけでなく、公園づくりとしてのベンチの製作プロジェクトや自然の楽しみ方としてのツルかご編みなどを実施することができた。<br>※市の事業：信太5号線に越境している樹木枝の剪定（34本）など | <input type="checkbox"/> 保全活動の拡大、多様化のための検討<br>・公園づくりとしての園路の階段整備や樹林の間伐等、保全活動の拡大や多様性の検討が必要。<br>そのためには、活動の参加者や参加団体の拡大、多様化のための方策の検討が必要。<br><input type="checkbox"/> 市の事業に対する調整<br>・協議会における市の事業の計画調整や報告。 |
| 普及啓発活動  | <b>⑤信太山里山講座</b><br>目的：公園づくりの新規パートナーの育成<br>内容：年間4講座開催予定<br>・公園協議会の活動をより拡大し、持続的なものにするため、市有地に関する知識や保全の技術を有する人材を育成する。  | <b>⑤信太山里山講座</b><br>内容：4講座開催（講座修了生5名）<br>・信太山丘陵市有地や里山活動について、座学から保全活動の実践、先進事例の見学まで、幅広い知識と技術の習得のためのカリキュラムを行った。   | <input type="checkbox"/> 受講生を増やすための方策と活動参加者拡大の検討<br>・受講生を増やすために、参加募集方法や講座受講期間の見直し（2年間の受講期間など）、自然観察会との連携等の検討が必要。   |
|         | <b>⑥自然観察会</b><br>目的：当該地の固有の自然環境や保全活動の趣旨等の啓発<br>内容：2回実施予定<br>・市有地における自然環境の固有性、独自性等を多くの人に周知することを目的とする。   | <b>⑥自然観察会</b><br>内容：2回実施<br>・緑の自然観察会：信太山丘陵市有地、惣ヶ池湿地周辺（参加者45人、内一般参加者27人）<br>・生きもの観察会～カミキリ虫の卵の調査～：信太山丘陵市有地、惣ヶ池湿地周辺（参加者77人、内一般参加者27人）<br>・会員による丁寧な案内や解説があり満足したというアンケート回答を得た。   | <input type="checkbox"/> 運営体制、方法についての検討<br>・短期的課題として、参加者が増加しつつあることから、園路等の安全管理、自然環境に対する影響等に注意が必要。<br>・長期的課題として、アクセスの方法やトイレの設置等、利便性について今後検討が必要。   |
| 調査      | <b>⑦湿地調査</b><br>目的：貴重種などの湿原性植物や湿原環境の保全<br>内容：湿地の植物種の確認調査（年4回実施予定）<br>・市有地の生物構成種の推移や人の利用等による影響などを調査し、今後も継続的にその変化を把握できるようにする。<br>・貴重な湿原性の植物の生育を維持できるような維持管理手法を検討する。          | <b>⑦湿地調査</b><br>内容：湿地の植物種の確認調査（10箇所×4回実施）<br>・平成22年和泉市自然環境調査で報告された『大阪府レッドリスト2014』に掲載されている6種貴重種（絶滅危惧Ⅰ類）について確認することができた。<br>・10箇所の湿地について、出現種や株数などのデータを蓄積することができた。<br>・定点観測に加え、府立大学藤原教授のご協力により、試験的にドローンによる空中からの写真撮影を試みた。  | <input type="checkbox"/> 継続的なモニタリングの実施<br>・継続的なモニタリングに加え、ドローンを用いた平面的な植生の把握等、新たな手法による調査も試行する。<br><input type="checkbox"/> 調査体制の検討<br>・来年度以降、開園に向けて公民協働による調査体制の具体化の検討が必要。                             |
|         | <b>⑧ネザサ根茎除去実験</b><br>目的：多様性のある二次草原への早期回復の可能性の検討<br>実験内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネザサの地下茎の除去</li> <li>・表土（光明池堤体）の撒き出し</li> <li>・植物出現種の調査（4月～10月）</li> </ul> | <b>⑧ネザサ根茎除去実験</b><br>○実験結果から以下のことがわかった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下茎の除去によりネザサは抑制される。</li> <li>・地下茎の除去により種数は増加する。ただし、外来種が多い。</li> <li>・表土の撒き出しの効果は小さい。</li> </ul>   | <input type="checkbox"/> 里山管理手法の実施<br>・今後も里山管理や自然復元に反映できるような実験を大学との連携のもと進めていくことを検討する。<br>（案）本年度はネザサ根茎除去実験箇所において、種子の撒出による多様性のある二次草原の復元を目指して実験を継続し、種子の採取等を検討。   |
| 広報活動    | —  | <b>⑨広報活動</b><br>目的：一般市民に対する信太山丘陵市有地の紹介<br>内容：和泉市商工まつり・都市緑化フェア（池上曾根史跡公園）において、信太山丘陵市有地や活動内容、生き物紹介等のパネル展示、クラフト体験やアンケートを実施した。   | <input type="checkbox"/> 参加者を拡大するための広報<br>・保全活動等への参加者を増やすためには、不特定多数へのPRだけでなく、自然に対する同じ志向の方や各種団体へのPRが必要。  |
| 都市計画手続き | <b>⑩公園整備計画</b><br>・市有地の公園整備計画を検討する。<br><br><b>⑪都市計画決定</b><br>・都市計画決定のための手続きを行う。公園名称を決定する。  | <b>⑩公園整備計画</b><br>・市道信太5号線に係る整備として、ロードキル対策施設についての調整や道路雨水排水に対する公園整備の考え方等の検討を行った。<br><br><b>⑪都市計画決定</b><br>・「信太山丘陵里山自然公園」として平成31年4月10日に告示された。   | <input type="checkbox"/> 公園開園の考え方の整理<br>・暫定的な部分開園に向けて、開園の考え方や手法についての検討が必要。<br><br><input type="checkbox"/> 広場、柵などの施設整備計画の検討。  |